西日本新聞　（明治25年3月26日第3種郵便物認可）　第47723号　（日刊）

西日本新聞

2016年
9月4日
（日曜日）

サイラーのパン　職人のこだわりと人生を読む　●出版部　書店で好評発売中

福間病院
精神科　心療内科　内科　歯科
福岡県福津市花見が浜1丁目5番1号
(0940(42)0145(代表)

パリ協定 米中が批准

ワードBOX

パリ協定　京都議定書に代わって、産業革命前からの気温上昇を2度未満に抑える目標を掲げる国際的な枠組み。昨年末の気候変動枠組み条約国会議（COP21）で採択。世界の温室効果ガス排出量の約1・5度分を占める中国と米国が批准し、発効の条件を満たした。同条約の発効は、両国を含む55カ国で、産業

久住発 サンデーコラム

TAO×竹田

文化芸術は街を元気にする！

さらなる飛躍 育成が鍵

人気グループ「EXILE」のメンバーとコラボしたCDが発売されるなど、一段と注目度が高まっている和太鼓パフォーマンス集団「DRUM TAO」。今回は、中心メンバーの西亜里沙さん、岸野央明さん、江良拓哉さんの3人と藤高郁夫社長に、これまでの歩みやこれからの展望などを聞いた。

（構成・河合仁志）

―少し早いですが、今年を振り返ってどうですか。

岸野　これまでとはステップアップの度合いが違う。周りの評価も含めて、外から掛けてもらう言葉やオファーが変わった。

江良　2月に米ブロードウェーを経験してものすごく前進した。その後、ショーの内容がガラッと変わって以前とは違う反応を頂いている。

西　メンバー一人一人も変わった。以前は着こなせなかった衣装を完璧に着こなせるようになったと思うし、いろいろなメディアに出ても物おじしなくなった。

藤高　若手が育ったのが大きい。米国ツアーで若手が苦労した分、大きな自信をつけて帰ってきた。中堅と若手のバランスがいいので良いものができる。

―活動が広がって、いろいろな公演にメンバーが分かれて出演していますね。

藤高　主役のヒロインをつくりあげるために5年前から教育システムを駆使して失敗を重ねながら育てている。3年ぐらい前から2班体制にして、若手を江良君が鍛え、もう一班を岸野君が取り仕切っている。この3人がいないステージもやれるようになった。

江良　若手の意見が採用されるようになってきた。みんなで仕上げていく雰囲気がもっと出てきたら、チームとしてもっといろいろな分かれ方ができる。

―入団当初、今の姿を想像していましたか。

西　全くしていなかった。でもずっと世界を目指そう、和太鼓への評価を変えようと言われてきた。その中でいろいろなショーに挑戦して一つ一つ積み重ねてきて今がある。全て実現しているのがすごい。

岸野　入団前は、和太鼓をしていることを人前で言いづらかった。2002年にTAOの里に来て、圧倒的に何もない環境で〝修行〟に打ち込むことに心地よさを感じていたら、いつの間にか人から憧れられる存在になっていた。

江良　11年前に田舎から出てきて全てが新しかった。世界に出て行ったり、斬新な衣装だったり。必死にやってきたから、「太鼓でCDを出したい」という夢もかなえられた。

―TAOの強みとは。

岸野　妥協がない。わずかなことでも全員が全力でやるので信頼関係につながる。常に前回を上回る結果を残そうと努力するので、数年前には想像すらできなかったようなショーや公演ができるようになる。

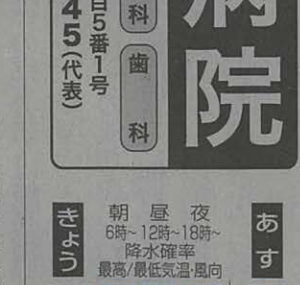
西　違う分野の表現者にもいい影響を与えている。どんなときも常に最高のパフォーマンスができるように日々取り組んでいる。

―さらに〝上〟に行くためには。

西　次の女性のプレーヤーを育てたい。メインで活躍できる子を見つけて、私の経験を伝えたい。

岸野　3班体制になったときに全く質感の変わらない、レベルの差がないようにしたい。大小を問わず、どの会場でも〝同じ〟TAOを見せられるようになれば、世界中で知らない人がいなくなる。一量産態勢」に入る時期に来たと思う。

江良　TAOのヒット曲を出したい。音楽としての和太鼓の可能性を世界に広めることで、チームとしての完成度、観客に与える感動の度合いも高まっていくと思う。

藤高　EXILEのHIROさんが「バックダンサー」と呼ばれるのが嫌で今の姿があるように、われわれも演歌の後ろでたたく太鼓ではなく、「前に出る」ことを目指してきた。世界に通用するクリエーターたちと組むことによって、TAOが「文化」になっていく。この3人が舞台芸術家としても成長していくことを楽しみにしている。

さらなる飛躍に向けて思いを語る（左から）岸野央明さん、江良拓哉さん、藤高郁夫社長、西亜里沙さん